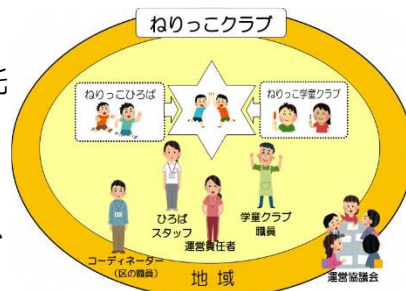


地域こどもコーディネーターとしての児童館活動

取組の背景・目的

- ・練馬区は、「学童クラブ」（放課後児童クラブ）と「ひろば」（放課後子供教室）とを一体的に運営する「ねりっこクラブ」を、小学校内に設置している。
- ・地域（学校・学校応援団・PTA等）とねりっこクラブ（委託事業者）とを結ぶねりっこクラブコーディネーター（以下ねりっこCD）がおかれ、直営児童館担当職員が兼任している。
- ・石神井台児童館（直営）は、館長が小・中学校の評議員をし、担当職員は小・中学校の学級担任との定期的な懇談会を実施。



地域のお祭りやパトロールにはPTAとともに参加。主任児童委員は、児童館の運営委員として関わるなど、地域と児童館との結びつきが強く、こどもたちについての情報連携が多い。

取組の概要

取組1 事業の相互乗り入れ

★出前児童館（児童館からねりっこクラブに出向いて事業を実施）

年数回、ねりっこCD2名がねりっこクラブに出向き、王様ドッジボール、ジャンケン列車、ろくむしなどの集団遊びや紙粘土マグネット、フェイスシールドを利用したクリアバッグ、紙皿風車などの工作の指導を実施。事前準備等もあるため、原則材料は児童館から持参している。

★児童館行事への出店（ねりっこクラブ職員が児童館に出向いて事業を実施）

ねりっこクラブ支援員の引率でこどもたちが児童館行事に参加することは今までもあったが、ねりっこCDとの関わりから、児童館えんにちに、ねりっこクラブ運営事業者（他の地区のねりっこクラブ職員を含む）がゲームコーナーを出店したり、区立全児童館等の祭りである「練馬こどもまつり」にねりっこクラブ職員も参加したりしている。



児童館えんにちへの出店
（ねりっこクラブ職員は、
ユニフォーム着用）

取組2 地域団体、近隣関係機関と連携した児童館の取組

主任児童委員から不登校のこどもたちへの支援や居場所づくりを行っている団体の紹介を受け、こどもたちが地域から集まっていることや、体を動かせる場所などの要望を伺う。すでに団体としての活動拠点を持っているが、団体登録をしてもらうことで、児童館に併設されている学童クラブ室の平日午前中の空き時間に、団体の活動場所としても使えるようにした。

また、近隣の図書館が中高生の利用増を目指していると聞き、夏休みに図書館に中高生向けボードゲームを持ち込んで出前児童館を実施した。

さらに、高校から「児童館で高校生の悩みなど電話相談ができないか」との提案を受け、相談のチャンスを増やそうと、逆に児童館が高校に出向いて、月1回昼食時間や自習時間帯に出前児童館を実施している。



図書館への出前児童館の様子

工夫点・留意点

取組 1

★出前児童館

- ・集団遊びは、出前児童館をきっかけに日々のあそびに取り入れられるようなものを実施。
- ・工作は、人数を多く捌けるように、簡単に作れるものを提供。また、それぞれのねりっこクラブの「カラー」に合わせて、じっくり制作派 or パツと作って遊べるもの派など、作るものを考えるようにした。



★児童館行事への出店

えんにちでは、他と出店内容がかぶらないように調整を行った。また、えんにちでも練馬こどもまつりでも、参加した職員みんなが楽しんでできるように PR ちらしなどを工夫した。

取組 2

不登校のこどもたちへの配慮として、平日午前中に学童クラブ室を専用の拠点として、こども自身が希望すれば児童館の部屋も使えるようにした。

取組の効果

取組 1

出前児童館を実施すると「また来てほしい」とねりっこクラブのこどもたちや、職員、スタッフから喜んでもらえるだけでなく、ねりっこ CD＝児童館職員の顔を覚えることで、来館のきっかけとなり、実施後の児童館利用の増加につながっている。また、ねりっこクラブ職員の身近な相談相手として、ねりっこ CD に運営をめぐる様々な相談が今まで以上に増えてきている。

取組 2

不登校のこどもたちの居場所の選択肢に児童館が加わったことで、実際の利用につながった。具体的には、児童館だよりは学校を通じて配布しているが、不登校のこどもたちには届かないため、児童館行事の案内を直接団体に持参し、行事に参加して楽しんでもらうことができた。

また、不登校児童・生徒が団体を利用している可能性がありそうだが…と学校から相談を受け、児童館から双方に情報提供を行い、団体と学校とが直接連絡を取り合える連携を築くサポートを行った。

課題・今後の展開

出前児童館は、ねりっこクラブ事業者やこどもたち、地域とさらに関係を深めたい思いがあるが、時間帯が児童館のコアタイムに重なるため、頻繁に実施することが困難である。

不登校のこどもたちへの支援や居場所づくりの団体との関わりを通じ、児童館ができることとして、団体の活動拠点への出前児童館の検討や、不登校生徒が学校の教室以外に登校してみても場所が足りないという中学校の現状を伺い、不登校生徒の登校先として児童館をサテライト的に使ってほしいと中学校に提案をしている。

このような取り組みを実践していくことで、児童館がさらに機能を強化した、こどもたちの拠点となり、居場所となりながら、地域のこどもコーディネーターとしての役割を担っていきたい。